

家庭



植物と子供

野口 幽香

子供を連れて途を歩いた人は誰でも経験したことでありましょうか、子供といふものはすらくと歩かぬもので、花が咲いてるとか、ばつたがとんでるとか、何でもかでも眼に觸るゝものに氣をつけまして、はては途ばたに座りこみなかく動かないものであります。どこの子供も皆同じことと思ひますが、これは子供の天性で、子供にとり

ては學校の稽古と同じ位なねうちのあることなのであります。

この子供の性質をよく利用すれば、如何程の影響が將來に及ぶかといふことに就て考へて見たいと思ひますが、効能を述べたればなかく澤山にありまして、將來植物學や動物學をする上に少なからぬ興味をもつ様になり、注意とか觀察とかいふ力を發達させる上にも誠に有力なことと思ひますが、こゝにいひたいのはそれではなくて、子供の品性に關したことであります。

先づ子供の事は措いて、人間といふ者には、何か一つの樂がなくてはなりません。毎日朝から晩迄職業ばかりに奔走し、一日中少しの間も、氣を外に轉るとか自分の樂に樂しむとか、いふことのない人は、段々と人間が殺風景になり、味もなく

面白味もなく、奥床しい品性などはさつぱりとな
 くなるものであります。(尤も其職業自身が非常
 な高尚なものであればそれは別)それ故何か一つ
 樂をこしらへるのは、自分の品性を養ふに最大
 切の事でありませう。されば樂といへば何でもよい
 か、芝居に行くのも、い、衣服をこしらへるのも、
 御馳走をたべるのも、眠るのも、皆樂といふ人
 あれば、それでも尙此目的を達しうるかといへ
 は、なかなかそうは參りませぬ、高尚の樂でな
 ければ益ないのみならず、害になるものもありま
 す。音樂をするとか、有益な書物を讀むとか、書
 をかくとか、これらは高尚な樂で(即人間の品
 性を養ふに最有力のものであります、が、悲し
 い哉、音樂も出來ず、畫もかけず、たまには書物
 のよめぬ人もあります、そこで、私は植物乃至は

天然を樂しむといふことを、おすゝめしたので
 あります、と申と、かの園丁の手に育つた室咲の
 梅や、盆栽の松を愛して、植木屋や年寄の仲間入
 をする様にさこえますが、私のいふ植物は其様の
 植物ではないので、そこらにある名も知れぬ草花
 や、踏ばたに踏まれながら尙咲いてる野菊の一輪
 を見て、無上の樂と感ずるといふ風にしたいの
 であります。

凡そ世界の中植物のない處といへば、人間の住
 む處では、阿弗利加の砂漠の中心、どんな田舎で
 も都の中心でも、冬でも夏でも、植物のない處は
 なく、又どんな貧乏人でも無學の者でも、得んと
 欲して得られぬことはないので、實にこれ位簡單
 な、これ位便利な樂の材料といふものは、殆んど
 外に得がたいかも知れませぬ。

机の上、掌ばかりの植木鉢に、すみれの蕾がだん／＼と大きくなる、毎日／＼水をやつては日なたへ出す、いつの間にやら、かたばみの芽ばえが針のめど程の葉を出してくる、向ふの方のこけはだん／＼青みを増して来る、とそういふことを見たとの感じは、實に何ともいふにいはれない、此小さな鉢の中にも天然界の理法はちやんと行はれて、小さな花ではあるけれど其一輪の貴さ、如何なる貴人が千万金をかけても此花一つ造ることは出来ぬ、天然の力によりてこそ机上にも尙此無限の美妙を感ずることが出来ると思ふ其貴さ。更に進んで人里離れし野原へ行くと、さあこれでは植物界ばかりではありませぬ、れんげ畑の眞中に坐りて、暖かなる春風に浴しながら、雲雀の聲をさく時などは、恰も自分が詩中の人物にでもな

り變つた様で、天然の余りに美しいのに自分の心のさたないのがはづかしくなり、自分の余りに小さくて無力なるために、心の底から謙遜になり、宇宙の勢力に心の底迄見すかされる様な心持になつて、果ては魂もぬけ去つた如く、自分のあるかなさかも知らぬ様に宇宙と同一したる其瞬間は、慾もなく、名譽もなく、純粹無垢で、實に清い高い人間となるのが出来るのであります、人しづく／＼かゝる境遇に接して置きますと、終には俗界にあくせくして居りましても、尙心の底には天然の美妙が充滿して、たえず清き高き平和なる心持が得られるであらうと思ひます。左ればとて、何の素養もないものが、野原へ出たからとて其様な感じは起りませぬ、それには矢張小さな時から、家庭や幼稚園の教育のしかたによるので、親が此

子供には天然を愛する様に導かうとかいふ一つの主義を以てすれば、左程むつかしくもなく目的は達しられること、考へます。私の友人に大尉植物のすきな人があつて、いつでも自分の此樂は家庭の感化であるといふことをいつて居りました、其人の話に、自分の祖母と母とが植物が大好きで、田舎の廣い庭の事でありませぬから、いろ／＼草木を植えまして四時花をたえさせぬとて、熱心に集めました、それで花が咲けば家内中で見に行き、自分が親類などから苗木をもらつて來れば、母も祖母も皆喜んで共に植えました。まづかういふ風でありましたが、此家庭の樂をいよく面白くせしめたのは、此家の近傍が陸軍内地で取拂ひとなつた事で、その空き邸には、さまざまの植物が常に此家族の來遊を待つたといふこと。十四五才迄

此中に育つた友人は、高さ樂を持ちうる幸福な者となりました。

まづ家庭ではこんな有様で、幼稚園學校なども教師は其興味をもつ必要がありません、幼稚園では殊に大切で、常に畑を作り、種を蒔いたり収穫をしたりするのは非常に有益な事で、美しい花を飾つて置くのではまだたりませぬ、美しくない花にも尙面白い處を見せてやる様にせねばならぬと思ひます、又庭に落ちる藤豆だとか紅葉の種、何でもかでも、命のある者は、蒔いたり水やつたりして、興味を感ぜしめる様にしますが、面白くと思ひます。

かやうにして、家庭が率先して熱心になり、幼稚園學校が補助すれば、成長の後には必ず一の樂として植物を愛する性を得ること、考へます。